

(一般社団法人日本相続学会 第6回研究大会 目次 (2018年11月17日) 基調講演より)

1. 第6回研究大会 基調講演より 「相続制度が生み出す所有者不明土地」	福井 秀夫 7
2. 第6回研究大会『土地の利活用と相続』報告 平成30年11月16・17日 甲府市役所、山梨県立図書館	27
3. (事例発表) お隣さんの荒廃した土地トラブル	水上 卓 35
4. (事例発表) 被災地の復興事業における相続未登記の 弊害と事業推進の迅速化+ α	小林 正宣 45
5. (事例発表) 資産価値が認められない土地	森田 努 55
6. (事例研究) 相続法改正と生命保険	村井 志郎 65
7. (論説) 配偶者居住権の業務上の問題点について	吉田 修平 83
8. (論説) 相続分の無償譲渡が民法903条1項の「贈与」に 当たるとされた判例	森川 紀代 95

本日は学際的、実践的な学術組織の有益な場にお越しいただき光榮に存じます。吉田修平先生と一緒にした研究や立法活動も踏まえ、相続と所有者不明土地を中心に、併せて意定制度、税制、所得再分配などについてもお話をしたいと思います。

(相続制度が権利を複数化している)

私はもともと法学部を出て、田建設省で都市計画、住宅政策、あるいは公事業政策、河川法などを担当してきました。行政法論文を書いていたこともあって、法政大学に移りまして、現在の大学では行政法、法と経済学を担当しています。定期積家立法や短期賃貸借保護方法に携わりましたが、民事法や相続法を専門に研究したわけではありませんので、所有者不明土地について吉田修平先生ほど詳しく